
俺は寝るがお前は飛べ

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は寝るがお前は飛べ

【Nコード】

N 6 2 7 3 N

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

はいどうも皆様。今日も、ぼくは、みなぎってます。まずね、中二病で何が悪い。余裕こいて透かして、斜に構えてほくそ笑みでる糞つまんねえドアホより、本気で泣いて本気で笑ってる馬鹿の方がなんぼかマシやるポケエ！ってね、わりと俺結構本気で思うんだけど、君らはどうだろうね？

片手で回したからってゆっくりになるでもなく、両手両足フルに使ってグルグルーってしたってたかが知れてる。

我が母艦、地球号は今日もそんな感じ。

所詮は六十数億個の駒のうちの一つ、爬虫類だの魚類だの植物だの微生物だのも含めればもうそれこそ兆とかそういう桁を超えそうなもうほんと限りなく無限に近い、無数にある駒のうちの一個。

地球号の回転運動、その増減担う無数の駒のうちの一個。

がんばろうが、手を抜こうが、ぶっちゃけ鼻くそ程の効力も発揮しない無数の駒のうちの一個。

それもかなり「あってもなくてもいい」部類を担ってるうちの一個。

それが俺。

何の気無しに伸ばした手は、望んでもないものにうっかり触れて振り解けなくなっちゃうし、全身全霊で、意地と威信にかけて伸ばした手はここぞとばかりに宙を掻く。

宇宙的な観点から見れば俺なんか生きてても死んでも大した違いなんぞ無くて、俺の生死で右往左往してくれちゃう人もそりゃあ多少はいるんだろうけど、それだって宇宙的に見たら「今のノーカンで」で通じちゃう程度の微々たるもので、ほんともうなんていうか、うん。

幸福の定義をずっと考えてて、もうほぼ完璧間違いないし、アインシ

ユタインもソクラテスもダヴィンチだってひっくり返るくらいの完全無欠の方程式を編み出したのに、代数 x に当てはめるべき「それ」が見つからない。

おーいあとこれだけなんだよー。

この x 、ここに当てはまるお前だけで完成するんだよー。
ばっちこーい。

よしこい！今来い！すぐ来い！俺は準備万端フル勃起！

呼びかけてみるも反応は無い。

無い。

無い。

そりゃそうだ。

ここは無限の情報の海、良い子も悪い子もポケットに一つＩＴの時代ですから。

数兆個の命のうちの一つがどーれーだーけ声ひり出したところで、音波の波を遮断するのはやっぱり数兆個の生物、生物、生物。

お前じゃない、お前ちよつとソコどいて、邪魔邪魔、君がそこに立ってると俺の声とどかない、頼むから遮る位置に立たないで、いやほんと悪いとは思っけど、うん、全部俺の為だから、俺の為にそこどいて。

そもそも、こんな数兆億千万個もの駒の奥底に埋められた俺が瞬発的に超本気とかだしてみたところで、無駄無駄無駄無駄無駄あ！丈助さんはいつだってそんな具合に迫真に迫る表情で少年ジャンプを介して俺に訴えかけてくる有様だし、ブチャラティはアリアリアリアリアリイ！言ってるし、アリーデヴェルチだし、さよならだ

けが人生だよ、もうほんと。

理性だとか、モラルだとか、固定観念だとか、そういう類の留め金を片っ端から吹っ飛ばしていけば最後に残るのは大概にして有りふれたテラカオスで、「一切の枷無き俺フリーダム！俺今超個性発揮してるう！」なんて勘違いしちゃう御仁も多かれ少なかれ見かける昨今ですけども、案外そうでもない没個性的混沌がただそこには広がって、それというのも、冷蔵庫にあるもの、食器棚にあるもの、洋服ダンスにあるもの、書斎にあるもの、部屋にあるもの片っ端から全て公園の池に放り込んで、それをグーグルアースで見たなら、誰の部屋の内容物をぶちまけたそれだって大概同じような雰囲気の特ラカオスになるよねって話でね、突き詰めちゃえばね、カオスなんて誰もが似たようなモン持つてるわけでしてね、誰のカオスだって上も下もありゃあしなくてね、もういわば一つの形容詞を用いるならうんこなわけですよ。

はいうんこ。

出ましたうんこ。

俺もお前もお前が嫌いなあいつも、お前が大好きなアレも、皆うんこ。

うんこー。

うんこだよお。

開けっぴろげにケツの穴開けばそこにはこびりついてるもんなんだよ。

誰のケツの穴の中にも。
ウンコが。

その上でね、ウンコとどう対面して、直視して、その上で臭いを嗅がずにやり過ごすかって事がここでは一番重要な問題であってね、そりゃあ臭いもん。嗅いだら臭いもん。見た目はカレーでも臭いはウンコだもん。
そりゃあ臭いよ。

鼻を閉じろ、そうしてでも直視しろっていうのがね、僕としてはお勧めの提案なんですけどね、そりゃあ自己啓発何チャラとか、スピリチュアルな人たちはもう少し別の、格好のいい提案をするでしょうけどね、そんな形振りにかまってる余裕のない人にね、綺麗事並べても駄目なんですよ。無駄なんですよ。
だってウンコなんですから。

俺が死のうが生きようが、お前の知ったこっちゃない。
お前が生きようが死のうが、俺の知ったこっちゃない。

そんなんはね、俺が昨日あえて歩道を外れて草むらを歩いた際に踏みつぶしたであろう30匹くらいの微生物の生死について哲学的に問うのと同じ程度に取るに足らない事柄なんだよ、
宇宙的に見れば。

こういう事いうとね、微生物にも命あんだよ！てめえ微生物なめてんじゃねえよ！とか言い出す直情馬鹿がいるけどね、なら問うよ、

俺は問うよ、あんたテメエ生まれてからアンタが殺してきた数億匹の命に、毎日朝晩3時間ずつかけて本当に心から涙滲ませて懺悔してんのかってね、俺は問いたいね。問いただすね。

絶対してねえから。

そういう綺麗事言い出す奴に限って絶対場当たりに熱くなって反論しちゃいました的なね、口先だけだから。

とにかくね、俺もお前もいつもこいつも、宇宙的に見れば菌にも満たない、菌を構成する酵素とか、酵素を結合する電子とか、そういうレベルの微生物とゆうかウンコなわけだ。

それでもお前が生きるなら、俺はこの目かっと思開いて、お前の歩くその姿直視してやんよって話なんだよ。

鼻はつまむが。

だって臭いもの。

ウンコの臭いは臭いもの。

臭くても、鼻はつまんでも、目はちゃんと拓きましようねって事なんだよ。

開くんじゃなくて拓くんだよ。

眼球でガンガン掘っていきましようよね世界をつて話なんだよ。

世界から見てお前がどれだけ微生物でも、その微生物たるお前の眼球が世界をどのように捉えたかつちゅう話なんだよ。
重要なのは。

宇宙からみてお前が醜かろうが、お前から見て世界が美しきゃ、お前そりゃ世界は美しいって歌っちゃっていいんだよ。

テノールで。

はつきし言ってね、俺なんてね、俺の視界に映る世界なんてね、そりゃあもう超あれだよ、もう眩しいくらい超マジ、あの、あれ、ぶっちゃけあんまり芳しくはないんですけどね・・・。

芳しくは無いんですがね、だってイスラエルとパレスチナじゃ未だにドンパチしてるし、世界経済はなんか迷走気味だし、多摩は再開発明らかに失敗だし、ゴミ袋有料になっちゃったし、もう最悪だよ。最悪極まりないんだけどね、でもあれだ、そんなことじゃあないんだよ、俺が言いたいのは。

俺が言いたいのは、俺だってね、そりゃあ身長が165アンダー、ピチピチのお肌でバツシ決まりまくってたらそりゃあ女装だってしたつつうの。

女子高生の制服着て、ウィッグつけて、メイクはあえてアゲハ系とかしちゃって、渋谷センター街とか歩いたつつうの。

そりゃあ初恋の相手はオトコだったつつうの。

叶わぬ恋にめそめそ枕を濡らす日くらい、一年のうちに365日程度はあるつつうの。

叶わない夢だらけだったつつうの。

普通に女の子みたいになって、普通にお化粧とかして、普通にスカートとか履いて、普通の女の子みたいに普通にバイト先とかで出会った普通の男の子と恋に落ちて、普通に多摩川の河川敷とかでデートして、普通に結婚して、普通に子供孕んで、普通に生んで、普通に老けて、普通に死んでく人生を夢見た事も多々あったつつうの。妄想したつつうの。

努力努力にまた努力、お涙頂戴のスポ魂根性フル勃起させてせっかく掴みかけた夢は、10年に一度とかそういうレベルの才能あふるる若者に余裕で掻っ攫われたつつうの。

人生そんなばっかりだつつうの。

そういうこっちゃあねえんだよ。

俺が言いたいののは、俺の顔が今笑って見えますか？泣いて見えますか？って事なんだつつうの。

はあ、顔で笑って心で泣いて？

んなわきやねえつつうの。

辛きや俺だって泣くつつうの。

男泣き入るつつうの。

笑ってる時は笑ってたんだよ。

上辺でも胡散臭くても左右非対称の口角でも、ほっぺピクピクしてても、とにかく笑ってる時は笑ってたんだよ。

でもほんとは心で泣いて、とかあえて隠してる部分を変に勘ぐるのはイケてねえんだよ。粹じゃねえんだよ。

んなもん皆、俺じゃなくなつて誰だつて、顔面に張り付けた表情の下には、無駄に何層にも積み重なったアレやコレやが盛りまくりだつつうの。

それでも皆、全部背負って、全部隠して、人前じゃ余裕こいて笑ってるんだつつうの。

誰だつて相応にアレコレあるなんてのは分かり切った周知の事実だつつうの。

その上で、笑ってますかって話なんだつつうの。

笑ってるだろうがよ、俺は。

笑ってるんだよ。

ハッピーの度合いなんてね、「その笑顔が本当に心からのものかど

うか」じゃなくて「口角が単純に何度上がったるか」で短絡的に測
っちまってると思っただよ。
いいじゃねえかそれで別に。
笑ってるんだから。

つまりね、俺が言いたいののはね、皆今日も元気にブツ飛んでますか
って話なんだけどね、ブツ飛んでないなら、もう泣き言とかどうで
もいいから、飛んでっちゃんえよって話でね、まあぶっちゃけ俺は眠
くなったからそろそろ寝るんだけどね、俺は寝るけどお前は飛べっ
ていう事なんだけどね、まあそういうわけだから、寝るます。おや
すみ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6273n/>

俺は寝るがお前は飛べ

2010年10月10日05時47分発行